

# 目 次

|                         |    |
|-------------------------|----|
| 1. 外部評価委員名簿 .....       | 1  |
| 2. 外部評価委員会次第 .....      | 2  |
| 3. 外部評価委員会報告内容 .....    | 3  |
| (1) 本学の教育課程について .....   | 5  |
| (2) 本学の今後の方向性 .....     | 15 |
| 大学・高専機能強化支援事業への取り組みについて |    |
| 沖縄女子短期大学からの編入学について      |    |
| 4. 外部評価委員会議事要録 .....    | 20 |
| 5. 3 ポリシー（令和6年度） .....  | 27 |



## 1. 外部評価委員名簿

岐阜女子大学・大学院 外部評価委員会

| 委員所属・職名                              | 委員氏名 (50音順・敬称略) | 担当    |
|--------------------------------------|-----------------|-------|
| 清水建設株式会社名古屋支店<br>副支店長                | 小川 哲也           | 住居    |
| 常葉大学 浜松キャンパス 浜松<br>基礎教育センター 課長       | 小関 雅司           | 生活・教育 |
| 公益財団法人スポーツ安全協会<br>会長<br>元文部科学省高等教育局長 | 布村 幸彦           | 全体    |
| 元岐阜大学 応用生物科学部<br>教授                  | 福井 博一           | 健康栄養  |
| 岐阜市教育委員会<br>教育長                      | 水川 和彦           | デジタル  |

## 2. 外部評価委員会次第

日 時：令和7年2月8日（土）

13：30～15：00

場 所：岐阜グランドホテル

岐阜県岐阜市長良 648 番地

Tel：058-233-1111(代表)

[次第1] あいさつ 13：30 ～ 13：40

（高口努 学長・杉山博文 理事長）

[次第2] 本学の教育課程について 13：40 ～ 13：55

（富士霸王 学生部長・横山隆光 文化創造学部長）

[次第3] 本学の今後の方向性 13：55 ～ 14：05

大学・高専機能強化支援事業への取り組みについて

沖縄女子短期大学からの編入学について

（高口努 学長）

評価委員講評 14：05 ～ 15：00

司会：学長補佐（瀬戸敦子・伊佐保香）

### 3. 外部評価委員会報告内容



(1) 本学の教育課程について

学生部長 富士 霸王

本学の教育課程・学修に関する諸活動は、2009 年度に採択された文部科学省「大学教育・学生支援事業」「学生支援プログラム」『社会ニーズに対応した学士力と高い就職率・定着率を目指す教育』の3年間の活動をベースにして、以後毎年見直しと改善を加えながら、活動を継続してきました。

大きな構成としては、本学での4年間の学びを中心に置き、入口である高校と出口である社会をしっかりと結びつける体制です。入口部分に於いては新入生が安心して大学の授業に参加できるように、「入学前課題」等による「入学前支援」を行います。入学後は学科・専攻のコア・カリキュラムを念頭に初年次教育に力を入れ、2年生、3年生と進級していくに従い専門教育科目を学びます。社会との結びつきについては、1年生からキャリア教育に取り組み、内容を濃くしながら3年生にそのピークを持ってくる体制を作っています。

大学認証評価でも高い評価を得た「各種テキスト」は、本学の教育課程を特長付けるもので本学教員が本学学生を念頭に作成したもので、「入学前学習課題テキスト」「初年次教育テキスト」「専門基礎テキスト」「資格取得ガイドブック」「資格取得のための手引書」を用意して節目、節目で活用しています。

近年は、近隣市町村からの要望も多いため、本学の特色を活かした「地域連携・地域貢献」にも積極的に取り組んでいます。

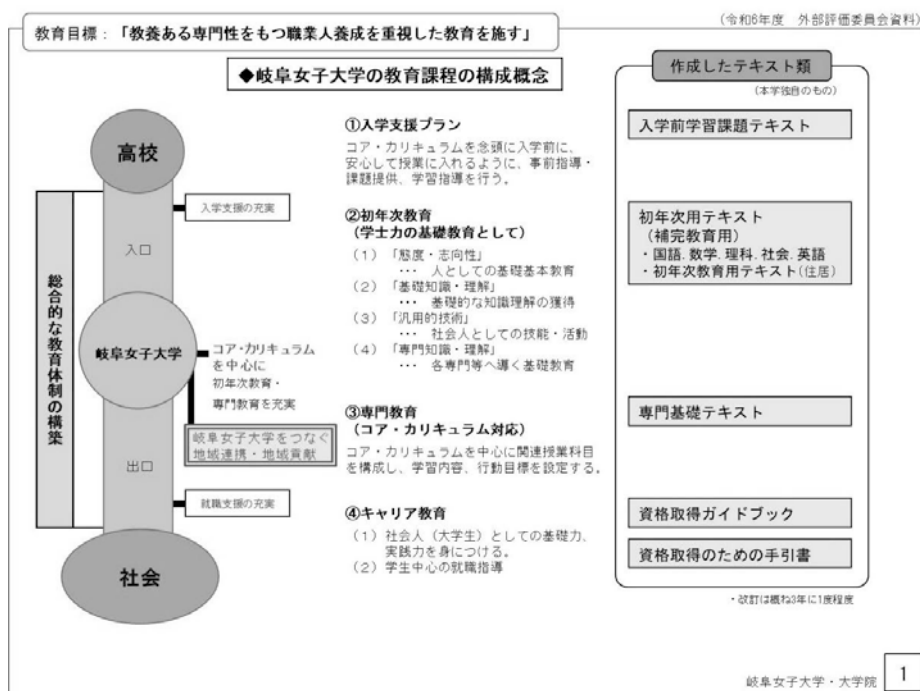


図 教育課程の構成概念図

## 1. 令和5年度の主な活動

### ○ 大学機関別認証評価・改善報告書の提出について

令和3年度（2021年度）に受審した「大学機関別認証評価」に於いて、本学は、2022年3月16日付けの『評価報告書』で『適合判定』を受けていますが、①収容定員充足率と定員確保に向けた取組み ②学生の懲戒に関する規定の制定手続きの改善 ③内部質保証に関して機能性が不十分であることの改善の、3点について指摘を受けていました。

②、③の指摘については即対応を済ませましたが、①の指摘事項への対応策は、本学の将来像にも大きく影響するものであり 本学を取り巻く厳しい環境等、種々の検討を重ね、オープン・キャンパスの開催日の増加、大学広報の改善、入学定員の減を含めた「改善報告書」を提出しました。

### ○ 大学・高専機能強化支援事業について

昨年度末に応募した「大学・高専機能強化支援事業」の選定結果が6月に公表され本学は、支援1：学部再編等による特定成長分野への転換な等に採択されました。

学部再編・成長分野への転換等を実現するには、多くの課題を抽出・解決していく必要があります。本学の将来像をしっかりと見定め 関係者一同の方向性を定め、取り組む必要があります。早速学内組織を立ち上げ、スケジュールを確認しながら令和10年度の学生の受け入れに向かって各種取組みを進めています。

### ○ テキスト類の改定について

本年度は、健康栄養学科で2テキスト、初等教育学専攻、観光専修で各1テキストの改定を行い、活用を始めました。

### ○ 授業改善に関わる学生アンケートについて

例年通り、後学期第1週「12月5日（木）～11日（水）」を目途に、学生アンケートを実施しました。アンケート回収後は、担当教員が結果を分析・報告書に纏め、本学のグループウェア（サイボウズ）上で公開しています。今年度も「自由記述欄」への対応が徹底されるよう例を示し、注意喚起しました。

### ○ 就職関連支援

例年通り、学科・専攻では資格取得のための支援講座を実施し、キャリア支援センター、教育支援センター中心に、全学的な支援講座を多数用意して、就職支援を積極的に行っています。就職内定率は2025年2月現在90%になっています。



## 2. 大学・高専機能強化支援事業について

当該事業は、令和4年度に文部科学省が デジタル化の加速的な進展や脱炭素の世界的潮流、理系を専攻する学生の割合が諸外国に比べ低いなどを背景にデジタル・グリーンの成長分野をけん引する高度専門人材の育成に向け、成長分野への学部転換などの改革を行う大学・高専を安定的・機動的・継続的な支援を行えるように基金を創設・支援する事業。支援は2分野有り 支援①は学部再編等による成長分野（デジタル・グリーン等）への転換支援②は高度情報専門人材の確保に向けた機能強化です。

本学が応募・採択されたのは支援①で私立・公立の学部・学科（理工農の学位分野が対象）で支援内容は必要な経費定率補助（20億円程度まで）原則8年以内となっています。

本学の「新学科設置準備委員会」の組織は、委員会委員長（統括責任者）は高口学長改組の学部として グリーンライフ創造学部設置部会に、建築デザイン創造学科・食農デザイン創造学科の2学科、文化創造学部、デジタルフロンティア学科を新設する体制にしています。各学科のコーディネーター（有識者）として、建築デザイン創造学科には、高村秀紀信州大学工学部建築学科教授、食農デザイン創造学科には、福井博一元岐阜大学応用生物学科長、デジタルフロンティア学科には、鎌部浩岐阜大学工学部電気電子・情報工学科教授にお願いしています。

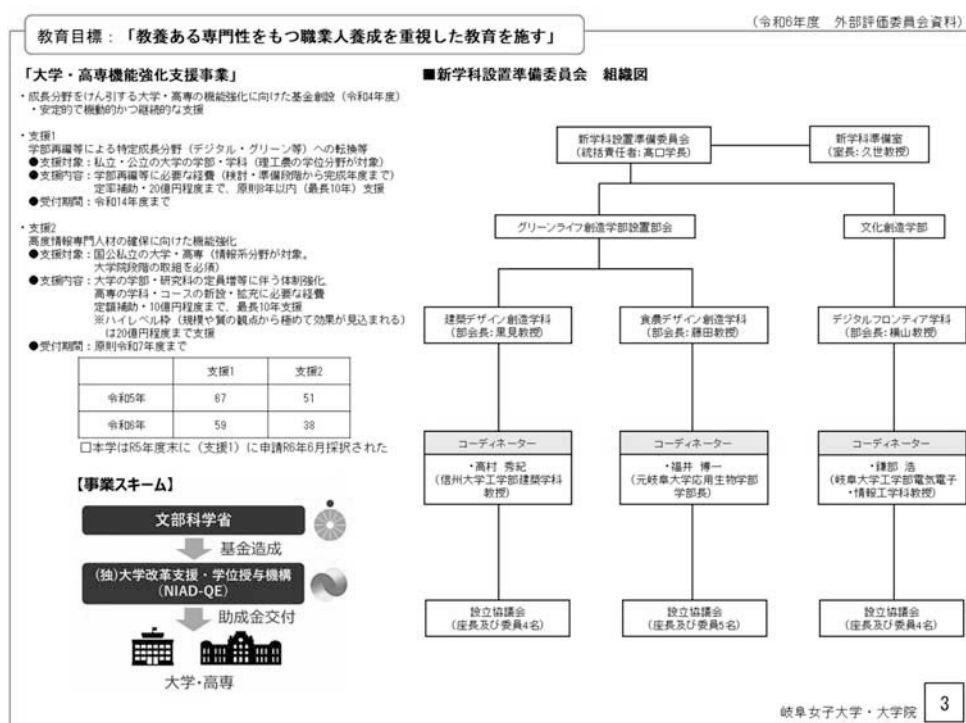


図 大学・高専機能強化支援事業・設置準備委員会組織図

### 3. 地域連携活動などについて

今年度も昨年同様、地域に存在する大学としての使命・責任を果たすべく各種の連携活動に取り組んで来ました。下図は、本学HPに掲載の今年度を中心に取り組んだ地域連携活動・大学間連携・企業との連携・高大連携の一覧表です。長年継続しての活動も多くありますので、詳細は本学HPを是非ご覧ください。

(令和6年度 外部評価委員会資料)

教育目標：「教養ある専門性をもつ職業人養成を重視した教育を施す」

#### □地域連携活動

| 連携先                    | 事業名<br>(課題名)                            | 実施年度                               | 関係する<br>学科・専攻・専修 |
|------------------------|---|------------------------------------|------------------|
| 株式会社美濃にわか茶屋(美濃市道の駅)    | 地域食材を活かした創作コラボレーション事業                   | 令和6年度                              | 健康栄養学科           |
| 山県市                    | 子育てイベント                                 | 令和6年度                              | 初等教育専攻           |
| 岐阜県                    | 県営住宅子育て世帯向け改修事業                         | 令和6年度                              | 住居学専攻            |
| 各務原市                   | 各務原市営住宅DIYリノベーション事業                     | 令和6年度                              | 住居学専攻            |
| 飛騨高山大学連携センター           | 飛騨高山学会                                  | 令和6年度                              | 書道専修             |
| 岐阜市<br>(岐阜駅周辺活性化実行委員会) | 駅とまちを光でつなぐ社のイルミネーション                    | 令和5年度～                             | 書道専修             |
| 山県市<br>健康介護課           | 岐阜女子大学・山県市コラボ事業 健康寿命を延ばす食教室～今から始める遠征教室～ | 令和5年度(再開)～現在                       | 健康栄養学科           |
| 株式会社美濃にわか茶屋(美濃市道の駅)    | 地域食材を活かした創作コラボレーション事業                   | 令和5年度                              | 健康栄養学科           |
| 各務原市                   | 各務原市営住宅DIYリノベーション事業                     | 令和5年度                              | 住居学専攻            |
| 岐阜市<br>教育委員会           | 新1年生へのタブレット端末貸与式「GIGAびらき」               | 令和5年度～                             | 初等教育専攻           |
| 山県市                    | E66プラン                                  | 毎年度実施<br>(※指定中学校教育実習:<br>平成29年度より) | 初等教育専攻           |

本学HPから抜粋

#### □大学間連携

| 連携先            | 事業名<br>(課題名) | 実施年度   | 関係する<br>学科・専攻・専修   |
|----------------|--------------|--------|--------------------|
| アサンブション大学(タイ国) | 国際交流         | 令和6年度～ | 文化創造学部<br>メタバースクラブ |

#### □企業との連携

| 連携先                 | 事業名<br>(課題名)               | 実施年度   | 関係する<br>学科・専攻・専修 |
|---------------------|----------------------------|--------|------------------|
| 株式会社「エスト」           | 商品企画と素材を無駄にしない衣服製作プロジェクト活動 | 令和6年度  | 生活科学専攻           |
| 有限会社<br>笠原商事        | LPガス容器管理のDX化を推進するEG        | 令和5年度～ | デジタルアーカイブ専攻      |
| 岐阜車体工業              | メタバースを活用した地域貢献             | 令和5年度  | デジタルアーカイブ専攻      |
| アトレファーム<br>ジャパン株式会社 | 体験農園みとか・岐阜女子大学コラボ事業        | 令和4年度～ | 健康栄養学科           |

#### □高大連携

| 連携先          | 事業名<br>(課題名)  | 実施年度   | 関係する<br>学科・専攻・専修 |
|--------------|---|--------|------------------|
| 飛騨高山大学連携センター | 書道部夏期研修会  | 令和5年度～ | 文化創造学専攻<br>書道専修  |
| 伊那西高等学校      | デジタルアーカイブに関する教育プログラムの開発。並びに教材開発研究等における伊那市文化遺産デジタルアーカイブの相互活用その他連携を推進 | 令和5年度  | デジタルアーカイブ専攻      |
| 岐阜県立岐阜商業高等学校 | メタバースの教育利用  | 令和5年度  | デジタルアーカイブ専攻      |
| 岐阜県立岐阜城北高等学校 | メタバースの教育利用  | 令和5年度  | デジタルアーカイブ専攻      |

岐阜女子大学・大学院

4

図 地域連携活動・大学間連携・企業との連携・高大連携の一覧

#### 4. 地域連携活動（住居学専攻）について

岐阜県との連携活動は、今年度が初めてケースですが 各務ヶ原市との連携活動は、平成28年度から続いています。「女子大生目線での提案・活動」は珍しく各種メディアでも多く取り上げられ、それらの実績・活動が県との初めての連携活動に繋がりました。

県営の、「加野住宅」「尾崎住宅」とも築40年以上経過して 両団地とも 高齢化が進み、「空住戸」が目立つ状態です。県としては、空住戸に若い世代を呼び込みたいとの趣旨から「県営住宅・子育て向け改修プロジェクト」として、「若い子育て世代をターゲット」にプロジェクトは進められました。学生たちは 現地に足を運び 現物の確認、現状の問題点等を細かく洗い出し 改修のポイントを整理・プレゼンを行いました。工事も終わり、入居者募集中ですが、見学会では好評だったと聞き、安堵し達成感を味わっています。

各務ヶ原市・旭ヶ丘住宅B棟307号室のリノベーションもほぼ同じような状況です。こちらのプロジェクトは「産官学」の共同事業の位置付けで、学生達が毎週現地へ出向き、貴重な、各種の作業も体験しました。

(令和6年度 外部評価委員会資料)

**教育目標：「教養ある専門性をもつ職業人養成を重視した教育を施す」**

**連携先：岐阜県  
県営住宅子育て向け改修プロジェクト—加野住宅—  
—尾崎住宅—**

**現況図**



**現況写真**



**問題点**

- ・それぞれの部屋が分離しており、どの部屋も寂しい印象
- ・特に長年空き住戸となっている部屋は壁や床、あらゆる箇所が傷んでおり、清潔感に乏しい
- ・全体的に暗い印象を受ける
- ・フローリングが主流になっている今、和室での生活は想像し難い
- ・洗濯機置き場が外部にある

**改修プラン**






**改修ポイント**

- ・南側の広いLDK空間
- ・洗濯機を室内に移動し、コンパクトな家事動線
- ・広い収納スペース
- ・寝室のワークスペース

**連携先：各務原市  
旭ヶ丘住宅B棟307号室**

**現況図**



**改修提案**



**作業風景**



岐阜女子大学・大学院 5

図 地域連携活動（住居学専攻）

— 9 —

## 5. 地域連携活動（書道専修）について

昨年度に引き続き 「岐阜駅前周辺活性化委員会」 から、「駅とまちを光でつなぐ杜のイルミネーション」の一環として 岐阜駅前の信長ゆめ広場に立つ「黄金の信長像」の両脇に 「天下布武」「夢幻の如くなり」の大きなのぼり旗・2本の揮毫を依頼され マスコミの取材の中、本学体育館にて精神を集中させ 一気に書き上げました。

揮毫を担当した2人の学生は 2年連続で日展入選の、実力者です。  
また、点灯式には柴橋岐阜市長から、感謝状も頂きました。

教育目標：「教養ある専門性をもつ職業人養成を重視した教育を施す」

（令和6年度 外部評価委員会資料）

◆岐阜市（岐阜駅周辺活性化委員会）  
駅とまちを光でつなぐ杜のイルミネーション  
（岐阜市、岐阜駅周辺活性化実行委員会）



「信長ゆめ広場」  
書道部の学生がのぼり旗（大2本・小38本）を揮毫  
（天下布武・夢幻の如くなり）



岐阜女子大学・大学院 6

図 地域連携活動（書道専修）

## 国際化 — アサンプション大学との大学間連携

文化創造学部長 横山 隆光

### (1) 覚書 (Memorandum of Understanding)

アサンプション大学は、タイのバンコクに位置する 11 学部を有する私立大学です。ビジネスと経済学の分野で高い評価を受けており、タイ国内外の企業との連携が強く、実務に即した教育が行われています。多くの大学と提携しており、交換留学プログラムや国際的な研究プロジェクトが盛んで、複数の国の学生が在籍しています。最新の設備を備えたキャンパスがあり、最適な学修環境が整っています。

2024 年に岐阜女子大学は、アサンプション大学と覚書を締結しました。岐阜女子大学は、メタバースの下呂温泉に AI (ChatGPT4) と連携した Chatbot を設置して外国人観光客に温泉の利用方法や和室の案内など、日本旅館での宿泊情報を提供します。これには、多言語化が必要で、生成 AI による翻訳と音声の生成には限界があることから、自然で聞きやすいタイ語の翻訳と音声が必要となっていました。そこで、アサンプション大学と連携して、アサンプション大学の学生のタイ語と北京語の音声ファイルをメタバースに置くことにしました。この連携によって、岐阜女子大学は多言語化によるメタバースの高機能化を図ることができ、アサンプション大学は、日本語や日本文化を学ぶタイの学生が実務に即した教材を利用できることになります。

岐阜女子大学では、下呂温泉で現地実習を行って、下呂市の観光 DX などについて学ぶ PBL (問題解決型学習) を行っています。この授業では、学生が地域の観光資源や観光客のニーズ、AI 活用などについて調査し、実際の観光プランの作成や観光客や地域社会に対して観光地の魅力やサービスを広く伝える広報(PR: Public Relations)のプロジェクトを実施します。受講している約 110 人の学生が下呂温泉の現地実習を行い、女子大生の視線で、下呂温泉の魅力を 1 分間原稿にして、撮影した静止画や動画と組み合わせて下呂温泉の「みどころ」紹介の資料をつくりました。岐阜女子大学メタバースクラブの学生は、この資料を基に下呂温泉の「みどころ」を発信するメタバースをつくりました。多言語化には、



ChatGPT4 のテキスト生成と音声生成機能を利用しました。生成した 6 か国語のテキストをアサンプション大学に送りました。ChatGPT4 の音声合成技術は完璧ではなく、特にイントネーションやアクセントの自然さに関しては限界があります。そこで、日本語と英語のコンテンツを搭載したメタバースの下呂温泉を先に公開し、温泉の入り方、和食の食べ方、和室でのマナーのメタバースも、日本語を先に公開することにしました。

アサンプション大学の学生は、これらのメタバースと岐阜女子大学が収集した下呂温泉の観光資源の資料を利用して、タイ語の翻訳と音声ファイルをつくりました。これらの資料を受け取った岐阜女子大学メタバースクラブは、メタバースの下呂市観光交流センターに、下呂温泉の「みどころ」の写真とタイ語の音声で「みどころ」を説明するキャラクターを設置しました。キャラクターは、浴衣を着た岐阜女子大学メタバースクラブのキャラクターを 3D モデリングで制作しました。制作したキャラクターをメタバースに設置して、キャラクターをクリック、または、タップすると音声が発生するように設定しました。

タイの学生と岐阜女子大学メタバースクラブの学生の交流が始まると、効率的に多言語化したり、使いやすいメタバースを制作したりするために、互いの学修や開発状況などの情報交換をする必要が出てきました。そこで、アサンプション大学の授業の様子と岐阜女子大学メタバースクラブの AI 活用やメタバース開発の様子などを伝えるビデオメッセージの交換が始まりました。アサンプション大学から届いたビデオメッセージを視聴したメタバースクラブの学生は、アサンプション大学の学生が自分たちの作った下呂温泉の「みどころ」や日本旅館や温泉でのマナーを

伝えるメタバースが、日本語や日本文化の学修に役立っていることを知って喜んでいました。岐阜女子大学メタバースクラブの学生は、自分たちで制作した英語と日本語の岐阜女子大学メタバースクラブ紹介のビデオメッセージを送りました。すると、アサンプション大学



から、「岐阜の学生さんたちの顔が見られて皆とても嬉しそうでした。学生同士の一体感が  
出て、看板の翻訳も積極的に作業を進めてくれました。」との返事が届きました。

メタバースの制作には、下呂温泉の「みどろ」の写真とキャラクターに設置するタイ語の  
看板が必要でした。岐阜女子大学メタバースク  
ラブがそのことを伝え、アサンプション大  
学からタイ語のテキストが送られてきました。



送られてきたタイ語は、アサンプション大学の  
学生がグループに分かれて、日本語を翻訳して作ったものです。送られてきたテキストを看  
板にして、メタバースに作ったタイ語の下呂市観光交流センターに設置し、日本語の下呂市  
観光交流センターと間を行き来できるようにしました。このようにしてアサンプション大  
学と岐阜女子大学メタバースクラブの学生が交流できる学修環境を構築し、メタバースを  
利用して、アサンプション大学の授業日にあたる火曜日と木曜日の午前 9 時～10 時 30 分  
(日本時間の午前 11 時～12 時 30 分) に交流が始まりました。

## (2) デジタルフロンティア学科

岐阜女子大学がアサンプション大学と大学間連携を行う必然性の一つが、デジタルフロ  
ンティア学科の開設準備において、両大学が共に持つ専門知識とリソースを結集し、学生に  
最高の教育環境を提供することです。両大学の教育スタッフが協力して、最新のデジタル技  
術や情報科学に関するカリキュラムを開発し、共同で研究プロジェクトを行い、新しい発見  
や技術の開発を目指します。また、将来的に学生が両大学間で交換留学を行うことで、異な  
る文化や教育システムを体験し、国際的な視野を広げる機会を提供することも視野に入れ  
ています。そして、地域企業や団体との連携を通じて、学生が実際のビジネスシーンで役立  
つスキルを身につける機会を提供します。

新設する情報科学を学ぶデジタルフロン  
ティア学科は、2026 年度中に設置認可申請を行  
い、2027 年度中に関連施設の整備、入試広報・  
入試を行い、2028 年度より学生を受け入れる  
構想です。デジタルフロンティア学科は、文化  
創造学部 に設置します。文化創造学部 に、デジ  
タルフロンティア学科(情報科学)と文化創造学科(文学)を持つことで、両学科の科目の受講  
が可能になり、理系と文系の科目を学び、広い視野を養い、多角的な視点で物事を捉える能  
力を育てる文理融合型学部を実現します。PBL を取り入れて、社会で役立つ課題解決能力、  
企画力、管理能力などを育成します。

### 養成する人材像

世界の現状や問題に関する知識を持ち、情報科学の  
各専門領域の知識や技術を習得、応用して、社会の  
様々な問題の解決、文化や価値の創造に貢献できる  
人材を育成する。

### 学科名称及び学位の表記

デジタルフロンティア学科  
Department of Digital Frontier  
学士(情報科学)  
Bachelor of Information Sciences

工学系

岐阜女子大学メタバースプロジェクトは、学生が主体となって、地域貢献、産官学連携を目指し、地域の社会ニーズに基づいたプロジェクトを推進します。地域の課題解決や経済活動の活性化に貢献し、実践的な知識やスキルを身につける取り組みです。岐阜女子大学メタバースプロジェクトの中心は、学内サークルのメタバースクラブで、学生はメタバースクラブの活動を通して、現場で使えるスキルを磨くことができます。実際のプロジェクトに取り組んで得られる経験は、他の学科に対する差別化要因となります。メタバースの制作には、AI、3Dモデリング、メタバースプラットフォーム、そして、Unityなどのプログラミングを利用します。クラブが取り組んでいる最新技術に触れられることは、テクノロジーに興味を持つ学生にとって大きな魅力です。未来の技術革新に触れられる環境は、学生を引きつける要因となります。メタバースクラブでの活動を通して得たスキルは、卒業後のキャリアに直結します。メタバースクラブの卒業生は、企業のDX関連部署でVR開発などを担当し、活躍しています。



## 地域特性

岐阜県デジタル・トランス  
フォーメーション推進計画

高校生の関心が高い

メタバース下呂温泉体験会


報告会

メタバース体験会

飛騨高山高等学校

岐阜県公務員高等学校

伊郎西高等学校











— 14 —



岐阜女子大学の今後の取組みに関する報告として、第一に新学科設置の検討状況、第二に沖縄女子短期大学からの編入学について、2点に関してお話しさせていただきます。

### 1. 新学科設置の検討状況

一つは、「大学・高専機能強化支援事業」に関して、新学科の設置の検討状況ということでお話をさせていただきます。

「大学・高専機能強化支援事業」ですが、デジタル・グリーン等の成長分野をけん引する高度専門人材の育成に向けて、意欲ある大学や高等専門学校が成長分野への学部転換等の改革に予見可能性をもって踏み切れるよう、機動的かつ継続的な支援を行うもので、2つの支援があります。昨年6月に第2回の公募選定結果ということで発表がありました。

本学は、学部再編等による特定成長分野への転換等を目的とする「支援1」の59件のなかに採択されました。その内容は、「グリーンライフ創造学部建築デザイン創造学科／食農デザイン学科」「文化創造学部デジタルフロンティア学科」の三つの学科を設置するという内容で採択されたところです。

「大学・高専機能強化支援事業」の内容ですが、本学が採択された「支援1」は、支援対象は、私立・公立の大学の学部・学科（理工農の学位分野が対象）、支援内容は、学部再編等に必要な経費（検討・準備段階から完成年度まで）定率補助・20億円程度まで、原則8年以内（最長10年）支援となっています。

#### 大学・高専機能強化支援事業（成長分野をけん引する大学・高専の機能強化に向けた基金）

別添3

令和4年度第2次補正予算額 3,002億円

##### 事業創設の背景

- デジタル化の加速度的な進展や脱炭素の世界的な潮流は、労働需要の在り方にも根拠的な変化をもたらすと予想。
- デジタル・グリーン等の成長分野を担うのは理系人材であるが、日本は理系を専攻する学生割合が諸外国に比べて低い。

※ 理系学部の学位取得者割合  
【国際比較】日本 35%、仏 32%、米 39%、韓 43%、独 41%、英 44%（出典：文部科学省「諸外国の教育統計」令和5（2023）年版）  
【国内比較】国立大学 60%、公立大学 47%、私立大学 29%（出典：文部科学省「令和5年度学校基本調査」）  
（注）「理・工・農・医・商・薬・保健」及びこれらの学際的なものについて「その他」区分のうち推計

- デジタル・グリーン等の成長分野をけん引する高度専門人材の育成に向けて、意欲ある大学・高専が成長分野への学部転換等の改革を行うためには、大学・高専が予見可能性をもって取り組めるよう、基金を創設し、安定的で機動的かつ継続的な支援を行う。

##### 支援の内容

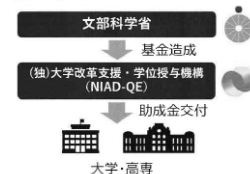
###### ① 学部再編等による特定成長分野（デジタル・グリーン等）への転換等（支援1）

- 支援対象：私立・公立の大学の学部・学科（理工農の学位分野が対象）
- 支援内容：学部再編等に必要な経費（検討・準備段階から完成年度まで）  
定率補助・20億円程度まで、原則8年以内（最長10年）支援
- 受付期間：令和14年度まで

###### ② 高度情報専門人材の確保に向けた機能強化（支援2）

- 支援対象：国公私立の大学・高専（情報系分野が対象。大学院段階の取組を必須）
- 支援内容：大学の学部・研究科の定員増等に伴う体制強化、  
高専の学科・コースの新設・拡充に必要な経費  
定額補助・10億円程度まで、最長10年支援  
※ハイレベル枠（規模や質の観点から極めて効果が見込まれる）は20億円程度まで支援
- 受付期間：原則令和7年度まで

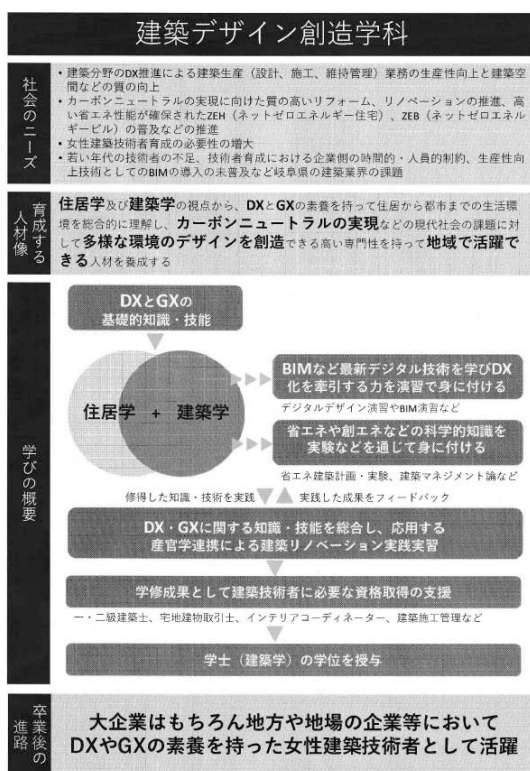
##### 【事業スキーム】



それでは、それぞれの学科において、現時点においてこういった内容での検討をしているかということについて説明します。

建築デザイン創造学科の「育成する人材像」ですが、「住居学および建築学の視点から、DX と GX の素養を持って、住居から都市までの生活環境を総合的に理解し、カーボンニュートラルの実現などの現代社会の課題に対して多様な環境のデザインを創造できる高い専門性を持った地域で活躍できる人材を養成する」ことです。

このような人材を養成するため、学びの概要として、DX・GX の基礎的な知識・技能を身に付ける、BIM など最新デジタル技術を学びDX化をけん引する力を演習で身に付ける、省エネや創エネなどの科学的知識を実験などを通じて身に付けていく、習得した知識・技術を実践するため、DX・GX に関する知識・技能を総合して応用する産学官連携による建築リノベーション実践演習や、建築技術者に必要な資格取得の支援により建築学の学士を授与する。卒業後の進路としては、大企業はもちろん地方の企業等において、DX・GX の素養を持った女性建築技術者として活躍することを目指しています。

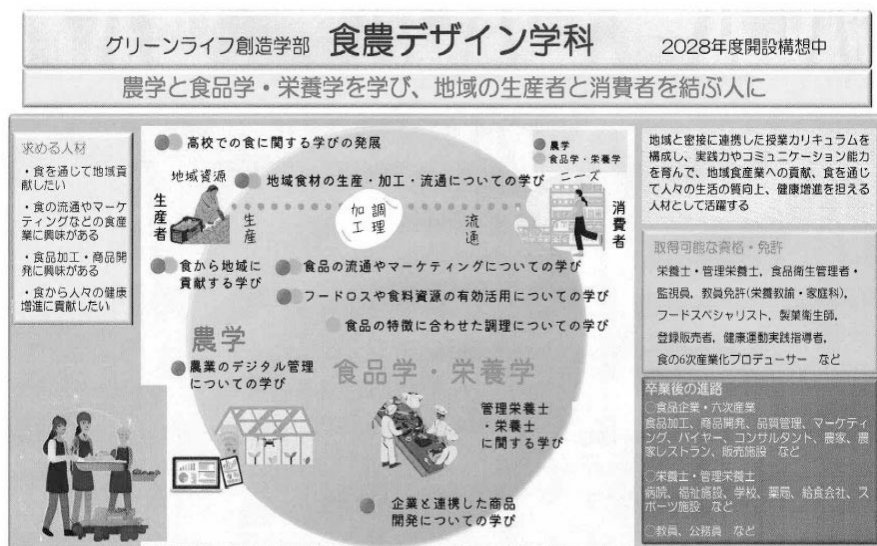


食農デザイン学科は、「農学と食品学・栄養学を学び、地域の生産者と消費者を結ぶ人」というコンセプトで、食を通じて地域貢献する人材、食の流通やマーケティングなどの食産業に興味を持つ人材、食品加工・商品開発に興味を持つ人材、食から人々の健康増進に貢献する人材の育成を目指します。

このような人材を育成するため、現在行っている管理栄養士の養成に加えて、農学のデジタル管理についての学び、食から地域に貢献する学び、地域食材の生産から加工・調理、流

通についての学び、そして、消費者のニーズといったものについてマーケティングをする農学的な学びをできるように内容の学科を検討しています。

このような地域と密接に連携した授業カリキュラムを構成し、実践力やコミュニケーション能力を育て、卒業後は、地域食産業への貢献、食を通じて人々の生活の質向上、健康増進を担える人材として活躍することを目指しています。

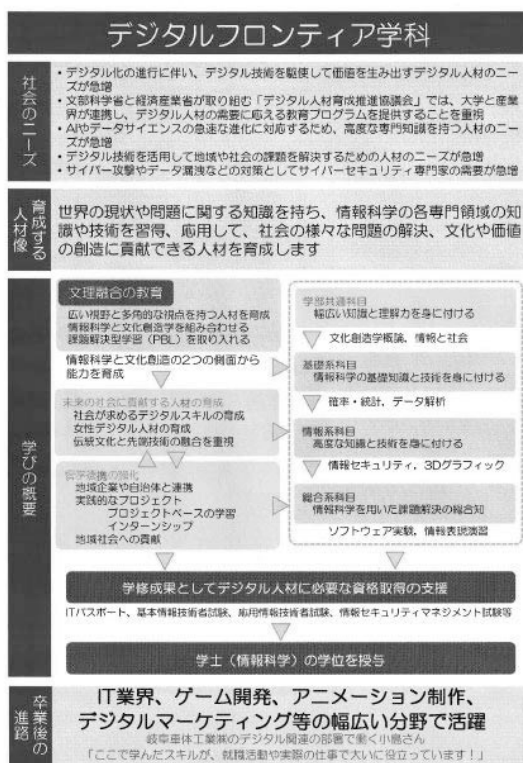


デジタルフロンティア学科における育成する人材像は、「世界の現状や問題に関する知識を持ち、情報科学の各専門領域の知識や技術を習得・応用して、社会のさまざまな問題の解決、文化や価値の創造に貢献できる人材を育成する」ということで、情報科学の専門的な知識を身に付けるといった内容の学科を考えています。

そして、学びの概要としては、文化創造学部の文系の学科とともに、文理融合の教育を行い、情報科学と文化創造の二つの側面からの能力を育成していくことで、幅広い、また高度な情報科学に関する知識や技術等を身に付けるといった内容で検討をしています。

学修成果としてデジタル人材に必要な、基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、情報セキュリティマネジメント試験等の資格支援を行い、学士(情報科学)の学位を授与します。

卒業後の進路としては、IT 業界、ゲーム開発、アニメーション制作、デジタルマーケティング等の幅広い分野で活躍できる進路を考えています。



新学科設置に向けたこれからのスケジュールですが、令和10年度開設を目途に、現在、構想中ということです。昨年の事業の採択を受けて、内容を精査して、現在、県内の全ての高校生を対象としてアンケート調査を実施しています。新しい学科について、どのぐらい興味・関心を持っているかということについて、ニーズ調査をおこなっているところです。

令和7年度中に、新学科のカリキュラム、必要となる教員等を検討いたしまして、ここにございますが、設置認可の申請は、令和7年度中に申請をするということで、今、検討を進めており、順調にいけば、令和8年度中に設置認可が出て、令和9年度は、広報期間ということで、実際に学生を受け入れ始めるのが、令和10年度からということになります。

## 大学・高専機能強化支援事業

2024.07.01

○学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援(支援1)

- ◆提出(支援1)学部再編等による特定成長分野への転換とうにかかる支援(令和8年度以降で実施する計画)
  - ・令和6年2月29日提出
- ◆審査結果:全体支援の申請状況・設定結果公表
  - ・令和6年6月26日学位授与機構のホームページで公開
- ◆内容の再検討・計画の見直し・進捗状況の管理への対応
  - ・内容の再検討(全体・個別/提出書類/中間報告)
  - ・計画の見直し(全体・個別/人・物・経費/中間報告)
  - ・進捗状況の管理(全体・個別/中間報告)
  - ・設置審査(課程審査含む)対応

□全体スケジュール

| スケジュール   |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|----------|---------|---|----|---|-------|---|----|---|-------|---|----|---|-------|---|----|---|-------|---|----|---|--------|---|----|---|--------|---|----|---|
|          | 令和5年度   |   |    |   | 令和6年度 |   |    |   | 令和7年度 |   |    |   | 令和8年度 |   |    |   | 令和9年度 |   |    |   | 令和10年度 |   |    |   | 令和11年度 |   |    |   |
|          | 4       | 7 | 10 | 1 | 4     | 7 | 10 | 1 | 4     | 7 | 10 | 1 | 4     | 7 | 10 | 1 | 4     | 7 | 10 | 1 | 4      | 7 | 10 | 1 | 4      | 7 | 10 | 1 |
| (入学定員)   | 330     |   |    |   | 330   |   |    |   | 215   |   |    |   | 215   |   |    |   | 250   |   |    |   | 250    |   |    |   | 250    |   |    |   |
| 入学定員の適正化 | 検討・方針決定 |   |    |   |       |   |    |   | 大学定員減 |   |    |   |       |   |    |   | 大学定員増 |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |
|          |         |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |       |   |    |   |        |   |    |   |        |   |    |   |

## 2. 沖縄女子短期大学からの編入学について

もう一点ですが、現在進めている沖縄女子短期大学からの編入学についてのお話をさせていただきます。

沖縄女子短期大学とは、もう15年以上の連携をしてきております。沖縄女子短期大学を卒業した、特に教育学を専攻した学生が、本学の初等教育学専攻の3年次に編入をしてきて教員の1種免許を取りまして、それで沖縄県内の小・中学校に、主に小学校になります。就職して活躍しています。その学生数ですが、今年度は沖縄女子短期大学からの編入学で、初等教育学専攻で約40名の学生を受け入れているというところです。

この沖縄女子短期大学だけではなくて、家政学部でも管理栄養士の資格を取りたいということで十数名を、だいたい毎年、編入学を受け入れています。これらを含めて、県内外の大学等から編入生を受け入れており、今年度は、全体で60名ぐらいの編入生を受け入れています。

私どもは、1年生の学生だけでなく、3年次の編入生も受け入れることによって、何とか学生数を確保しているところでございます。こういったところも、今後、力を入れていきたいと思っております。特に、沖縄女子短期大学につきましては、学校教育だけではなく、総合ビジネス学科という学科がございまして、そこと具体的な連携を進めてまいりたいと思っております。ここで、私どもの文化創造学部には観光コースがありますので、観光専修での学びができるように連携していくということ、住居学専攻で、宅建士の資格を取れるような学びをしてもらうということなど、さらに姉妹校連携の充実ということで、メタバースプロジェクト等にも関わっていただくというような形で、更に沖縄女子短期大学の総合ビジネス学科から編入生を増やしていきたいと考えております。そういった方向で、現在、沖縄女子短期大学とも話を進めさせていただいているという状況でございます。

## 4. 外部評価委員会議事要録

日 時：令和7年2月8日（土） 13時30分から15時00分

場 所：岐阜グランドホテル 東館1階 ルミエール

参加者：

### （1）外部評価委員（50音順）

- ・小川 哲也氏（清水建設株式会社名古屋支店副支店長）
- ・小関 雅司氏（常葉大学 浜松キャンパス浜松基礎教育センター課長）
- ・布村 幸彦氏（公益財団法人スポーツ安全協会会長 元文部科学省高等教育局長）
- ・福井 博一氏（元岐阜大学 応用生物科学部教授）
- ・水川 和彦氏（岐阜市教育委員会教育長）

（小関委員：レポート提出）

### （2）学内関係者

杉山理事長、高口学長、富士学生部長、藤木家政学部長兼生活科学専攻主任、  
横山文化創造学部長兼文化創造学専攻主任、黒見入試室長兼大学認証評価担当部長、  
久世遠隔・通信教育部長、藤田健康栄養学科長、森初等教育学専攻主任、  
谷デジタルアーカイブ専攻主任、倉坪事務局長、伊佐学長補佐、瀬戸学長補佐

### 司会・進行

学長補佐（瀬戸、伊佐）が司会・進行。委員会に先立ち外部評価委員の紹介を行った。

### 1 開会のあいさつ

◎ 高口学長から、少子高齢化で学生確保が厳しい昨今の状況のなかで、本学は文部科学省の大学・高専機能強化支援事業に申請し採択されたことを受け、新しい理系の学科の設置を目指し検討を進めているとの説明があった。また、特色あるカリキュラム、取り組み、教育を推進してきているものの、なかなかうまく学生確保に結びついていないため、本日は忌憚のないご意見をお願いしたいというあいさつがあった。

◎ 杉山理事長から、岐阜県の人口が5,000人程度減少しており、今の18歳人口の東京集中からは逃れられない現実がある。そんな中、本学は卒業生がUターンして地元

の活性化に貢献できる教育はいかにあるべきなのかを目指している。例えば、地元の休耕田や休耕畑を栄養学の観点からどう活かすのか。古い家をどのようにリフォーム（再利用）するのか、壊す（資材・土地利用）のかを学ばせる。日本国全体を考えたときに地方もそれ相応の努力をして、生き残る道を探りたいと思っている。是非本学の方向性について忌憚のないご意見をお願いしたいというあいさつがあった。

## 2 本学の教育課程について

- ◎ 富士学生部長から、①教育課程の構成概念、②令和6年度の活動概要、③大学・高専機能強化支援事業の支援概要について報告、説明があった。

### ①教育課程の構成概念

- ・ 本学独自に作成しているのは、1) 入学前学習課題テキスト、2) 初年次用テキスト（補完教育用）、3) 専門基礎テキスト、4) 資格取得ガイドブック、5) 資格取得のための手引書であり、概ね3年に一度改訂している。

### ②令和6年度の活動概要（実施事業について説明）

#### ○地域連携活動について

- ・ 県営住宅子育て世帯向け改修事業
- ・ 各務原市営住宅 DIY リノベーション事業
- ・ 駅とまちを光でつなぐ杜のイルミネーション

#### ○大学間連携について

- ・ タイ国アサンプション大学との国際交流

### ③大学・高専機能強化支援事業の支援概要

支援1「学部再編等による特定成長分野（デジタル・グリーン）への転換」

- ・ 新学科設置準備委員会組織について

- ◎ 特徴的取り組みについて、横山文化創造学部長から、大学間連携（国際化）としてタイ国アサンプション大学との連携について説明と現状報告があった。

- ・ 本学との覚書
- ・ メタバースプロジェクトでの多言語対応

## 3 本学の今後の方向性について

- ◎ 高口学長から、次の2点、①大学・高専機能強化支援事業、②沖縄女子短期大学からの編入学について本学の方向性の説明があった。

#### ①大学・高専機能強化支援事業

- ・新学科設置の検討状況について

令和6年度の支援1で59件の中に本学が採択され、改組後の学部・学科名を「グリーンライフ創造学部建築デザイン創造学科」、「グリーンライフ創造学部食農デザイン学科」と「文化創造学部デジタルフロンティア学科」として設置する。

- ・新学部・学科における検討内容について

グリーンライフ創造学部「建築デザイン創造学科」

DX・GXの基礎的知識、技術を身に付け、豊富な実践演習を行う。

グリーンライフ創造学部「食農デザイン学科」

これまでの管理栄養士育成に加え、農業と食との関連や流通管理について学ぶ。

文化創造学部「デジタルフロンティア学科」

工学系の情報科学の学位授与し、文理融合の教育を目指す。

#### ②沖縄女子短期大学からの編入学について

- ・本学との連携は15年以上続いている。
- ・短大を卒業後、本学の初等教育学専攻3年次に編入し、教員免許1種を取得し、沖縄県内の小中学校で活躍している。
- ・令和6年度の沖縄女子短期大学からの編入学生は学校教育専修で約40名受け入れている。
- ・家政学部でも、県内の短大や大学等からほぼ毎年編入学生を受け入れている。
- ・1年生の入学生確保だけでなく、編入学生を受け入れることでも学生確保をしている。
- ・今後、沖縄女子短期大学総合ビジネス学科との具体的な連携を協議しており、文化創造学部の観光専修での学びや宅地建物取引士の資格を視野に入れている。
- ・観光の充実としては、メタバースプロジェクト等でも進行している。

#### 4 外部評価委員の講評

主な内容は以下のとおりであった。

◎ 布村 幸彦氏（公益財団法人スポーツ安全協会会長 元文部科学省高等教育局長）

- ・岐阜女子大学は、女子大学であり、入学前から学生を育て、就職率100%に近い実



績がある。また、沖縄サテライトキャンパスを有し、タイの大学との連携があることは強みである。この強みをPRしていかなければならないと思う。

- ・学部の新増設構想に理工系の要素が明確化されており、実現して高度な専門性、技術を持った女性の技術者を育成してほしい。
- ・地域連携は今後、県や市町村との連携が大きなテーマとなると思う。すでに地域連携活動を活発に展開しているので、継続していただきたい。
- ・学生確保は大きなテーマである。県内のみならず、岐阜女子大学への進学実績のある他県においてもニーズ調査を行うことはもとより、高校との連携を強めて大学の情報提供を積極的に行う必要がある。
- ・デジタルアーキビストは伸びていないということであるが、自治体や企業等のニーズも高い分野であると思うので、新学部と連携し開拓していただきたい。

◆＜質問＞「大学・高専機能強化支援事業」で入学定員は減らす方向か。また、学部は集約していくのか。

◇＜回答＞入学定員は減らす方向で、すでに文部科学省に届出申請しており、来年度から実施する。既存の学部・学科は一部を残し、健康栄養学科や住居学専攻は新しい学科に移行する予定である。

◎ 福井 博一氏（元岐阜大学 応用生物科学部教授）

◆＜質問＞学科を改編するにあたり、管理栄養士と栄養士の資格取得はどのような位置づけになるのか。

◇＜回答＞管理栄養士、栄養士課程を残した状態で、新学科の学部を融合させる予定である。位置づけとしては、ベースに管理栄養士、栄養士を残し、そのうえでオーソドックスな農学ではなく、食農という形で少しの農学の部分で消費者と結びつけるような学びを想定している。

- ・健康栄養学科を改編するにあたり、管理栄養士と栄養士の資格の位置づけは重要だと考える。愛知県には管理栄養士、栄養士の資格が取得できる大学はたくさんある。これらの大学との競合を考えるうえでは、今回の改編で構想されている「食」と「農」をつなげる「地域性」は非常に重要だと考える。
- ・「食」に関する管理栄養士、栄養士の知識をもちながら、地域の「農」をサポートしていける、地域性を理解した人材養成モデルの構築が重要だと考える。この視点に立てば、愛知県の大学とは競合しないと思う。

- ・管理栄養士、栄養士が生産という内容について一定の理解をすることが、「地産地消」につながってくると考える。作っているところ（生産）を理解できているからこそ産業が新しく生まれる。この新しい産業を岐阜女子大学が創生していくことを期待する。
- ・従来の農学部と同じにならないように、ベースの管理栄養士、栄養士の資格を全員取得してほしい。これらの資格を持ちながら、生産現場、農業の現場を知り、十分に理解する教育を目指してほしい。「食」と「農」をデザインする、面白い学科ができると思う。

◎ 小川 哲也氏（清水建設株式会社名古屋支店副支店長）

- ・施工管理系の職員採用では施工管理だけでなく、積算やBIMなどを扱う生産技術や営業など他業務への道も開き期待している。中でもBIMに関しては、単なるオペレーターではなく、建築の知識を持って専門業者や現場と打ち合わせなどでオペレーターに指示できる人材を求めている。
- ・建築に興味があり、発注者、設計者から真のニーズをつかみ、専門工事業者、社内ともコミュニケーションが取れる人材を求めている。
- ・入社時に資格の保有を特には求めていないが、岐阜女子大学では在学中に2級建築士の資格取得を目指していることは1級建築士取得に向けて大変望ましいことである。
- ・ホームページにおける高校生への広報は、学生がそれぞれの言葉で説明した方が、より効果的ではないか。
- ・今後、建築デザイン創造学科の設立・移行の構想は、従来の住居学の言葉のイメージが住宅に限られる印象があるため、より広い分野を想像できる名前にするということは重要だと思う。

◎ 小関 雅司氏（常葉大学 浜松キャンパス基礎教育センター課長）

- ・岐阜女子大学は、入学から卒業まで一人ひとりの学生に応じた細かな指導を行い、個々の力を着実に伸ばして社会に送り出す「面倒見の良い大学」である。また、教育の質の高さは卒業時および卒業後アンケートから肯定的評価が高いことからもうかがえる。
- ・18歳人口の減少に伴う定員充足率の低下は現実的な問題ではあるが、高校や連携し

ている地域や団体は、岐阜女子大学の教育内容や面倒見の良さを実感しており高く評価している。そのパイプを引き続き大切にし、情報発信に一層努めていただきたい。

- ・「大学・高専機能強化支援事業」において、女性の視点から思考し、課題の見出しと解決案を提案できる人材の育成を目指す点は、岐阜女子大学らしさであり強みである。また、先進的に取り組んできた「メタバース」などは、強みとして特色化を打ち出していただきたい。「グリーンライフ創造学部」や「食農デザイン学科」は、新しい発想での教育デザインと想定される出口の開拓に期待したい。是非、これらの情報を早めに発信していただきたい。
- ・家庭科教員合格実績は誇ることであるが、全国的に「文・人文」、「生活科学」への志望が減少傾向にある中での「入学者の確保」は大きな課題である。
- ・「家庭科」の免許に加えて「情報」の免許を有していることは、採用側にとっては「魅力的な人材」であるので、学生に指導し挑戦させていただきたい。
- ・家庭科は「教科横断的な視点からの教育活動」を取り入れやすい教科であると思われるので、幅広い柔軟な見方や考え方ができる家庭科教員の育成を目指していただきたい。
- ・初等教育学専攻は、令和の時代に求められる学びの姿を意識して教育内容の改善を図っている様子が伺える。1 年次から現場での体験実習が組み込まれており、即戦力のある保育者・教員が育成されることが期待できる。頑張ってもらいたい。
- ・「GIGA スクール構想」により、今後 1 人 1 台端末が導入された学びを経験した世代が入学してくる。児童・生徒を教える立場として、コンピューターや情報端末の効果的な活用を意識して指導できる人材を養成してもらいたい。
- ・就学前教育・初等教育段階では、教師が子どもの成長に与える影響が大きいので、まず、国語教育を通して、学生自身が正しい言葉遣いができる教員の育成を目指していただきたい。

◎ 水川 和彦氏（岐阜市教育委員会教育長）

- ・岐阜女子大学の学生のイメージは、子どもに対し誠実で愛情に満ちた対応ができる学生といつも感じている。
- ・現在の学生は、自分が何かを欲しいときになって、初めてその取得方法について学び情報を得るように育っている。こうした学生に「自分磨き」の力を「社会貢献」

への力に変えて社会に送り出すことが大学の大きなミッションではないかと思う。

- ・「GIGA スクール構想」によりタブレットが導入された学校の子どもは調べることが日常化し、当たり前となっている。また同時多発的に仲間と協働することが可能となり、仲間の考えを知ることができるようになり、情報発信の作業が加わりセットとなっている。このような子どもたちが大学生になるということを念頭に置き、新しい学びを展開していけば、岐阜女子大学を目指す学生が増えるのではないかと思う。
- ・義務教育段階の学校では、校務 DX の推進に伴い文書の作成やデータ処理、AI の活用などが進み、学校の雰囲気が変わりつつある。基本的な ICT の活用能力で、探る・処理する・まとめるといった能力は教員にも絶対に必要な能力の一つである。さらに、プレゼンする、動画を編集するといった発信する能力も必要である。
- ・「大学」と「地域」、「人」をつないで大学での学びを実証するということはとても重要なことである。ぜひ、学習支援や生活支援に学校の現場に来ていただき、大学での話もしてもらえると、未来の人員の増加につながるのではないかと思う。
- ・岐阜市は来年度、再来年度に義務教育学校を開校するが、その際学校をリノベーションすることを計画している。この設計を学びのフィールドとして利用していただきたい。大学の知見が加われればすごく面白いものができると思う。
- ・大学の知見が小中学校などの教育現場に少しリンクさせることにより、そこに关わる大学生の姿を見ながら小中学生さらには高校生が、岐阜女子大学につながっていく仕組みができるとすごくいいのではないかと思う。
- ・高大連携だけではなく、学びのフィールドとして小中学校に目を向けることも意義があることと考えている。

## 5 閉会のあいさつ

- ◎ 高口学長から、謝辞と皆様から頂いた貴重な講評を基に、新学部・学科の設置、学びのフィールドとしての地域を活かした教育の検討や発展を図り、全教職員一丸となって社会から求められる大学を目指して努力を継続していきたいとのあいさつがあった。

## 5. 3 ポリシー



| 大学  | 家政学部   | 文化創造学部 文化創造学科   |
|---|--|---|
| <p>卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）</p> <p>岐阜女子大学は、建学の精神「人らしく、女らしく、あならしく、あなたならではの」の下、広く豊かな教養と高い専門的知識・技術を育み、課題の見出しと解決に取り組む地域社会で主体的に活動できる人材を育成する。そのため、大学が定める学力及び能力・人間力を身につけ、卒業要件を満たして所定の期間在籍した者に、卒業を認定し、学位を授与する。</p>            | <p>卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）</p> <p>家政学部は、建学の精神に基づき、広く豊かな教養と家政学に関する高い専門知識や技術を育み、課題の見出しと解決に取り組む地域社会で主体的に活動できる人間力を育成するため、以下の3つを教育目標とする。この目標を踏まえて編成した本学部の教育課程を修め、必要な卒業要件を満たした者を学位授与の適格者とする。</p> <p>1 「女子ならではの」深い教養を学修し、地域社会で主体的に活動できる力を身につける。</p> <p>2 家政学の専門知識と専門技術を修得し、地域社会で有用な資格が取れる力を身につける。</p> <p>3 地域社会の幅広い分野で活躍できるように、自律性と協調性、偏理解、コミュニケーション能力などについて、豊かな人間力を身につける。</p> | <p>卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）</p> <p>文化創造学部は、建学の精神に基づき、広く豊かな教養と初等教育・文化事業に関する高い専門知識や技能を身につけ、課題の見出しと解決に取り組む主体性を発揮して地域社会で活動できる人材を育成するため、以下の3つを教育目標とする。この教育目標を踏まえて編成した教育課程を修め、卒業要件を満たした者を学位授与の適格者とする。</p> <p>1 「女子ならではの」深い教養を育み、生涯にわたって学び続ける力、主体性を発揮して地域社会で活動できる力を身につける。</p> <p>2 初等教育・文化に関する高い専門的知識と技能を修得し、社会的に認められる資格を取得できる力を身につける。</p> <p>3 相手の立場を思いやる心、たゆまず努力する姿勢、多様な価値観を認める寛容な精神など、地域社会で幅広く活躍できる人間力を身につける。</p> |
| <p>教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）</p> <p>岐阜女子大学は、豊かな教養と高い専門的知識・技術を育み、課題の見出しと解決に取り組む地域社会で主体的に活動できる人間力の育成をめざして、多様な授業形態を組合せた教育課程を体系的に編成し、それを実践・評価する。</p>  | <p>教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）</p> <p>家政学部は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、教養教育科目、学部共通科目、専門科目、関連する選択科目や実践的教育を体系的に編成して開講する。</p>  | <p>教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）</p> <p>文化創造学部は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、教養教育科目、学部共通科目、専門科目、関連する選択科目や実践的教育を体系的に編成して開講する。</p>   |
| <p>1 教育課程の編成</p> <p>(1) 教養教育では、大学での学びと将来に向けての学びに主体的に取り組む自律性を育むため、学修の基礎となる全学共通教育科目を配置する。</p> <p>(2) 専門教育では、高い専門性を身につけるため、主要科目と関連する履修科目の到達目標を明確にして体系的に配置する。</p> <p>(3) 学識の実践力を高め、課題の見出しと解決に取り組むため、実習・演習科目を効果的に配置する。</p> | <p>1 教育課程の編成</p> <p>(1) 教養教育では、全学共通で自己確立（自己探求、自己表現、自己創造）をめざす基礎教育に注力し、地域社会のグローバル化に応じた情報学、外国語学と教養選択科目を配置する。</p> <p>(2) 専門教育では、学修の基礎となる共通科目と高度な専門科目を体系的に配置し、国家資格等の取得をめざした教育課程を編成する。</p> <p>(3) 実践的能力を重視して、課題の見出しと解決に取り組むため、講義に関する演習・実習科目を多く配置する。</p> <p>(4) 論理的な思考力と行動力を身につけるため、卒業研究と卒業論文の作成を必修とする。</p>   | <p>1 教育課程の編成</p> <p>(1) 教養教育では、全学共通で自己確立（自己探求、自己表現、自己創造）をめざす基礎教育に注力し、地域社会のグローバル化に応じた情報学、外国語学と教養選択科目を配置する。</p> <p>(2) 専門教育では、学部での専門的な学修の基礎となる共通科目と各専攻が定める主要科目と関連科目を、学修内容・学修目標を明確にして配置する。</p> <p>(3) 演習科目、学外実習科目等を配置し、課題の見出しと解決に取り組む学生の実践力の育成を図る。</p> <p>(4) 論理的な思考力と実践力を身につけるため、卒業研究と卒業論文の作成を必修とする。</p>  |

|  |  |   |
|--|--|---|
| <p>2 教育内容・方法</p> <p>(1) 教育目標・教育課程に応じた効果的な教育を推進する。</p> <p>(2) 基礎・専門教育課程では、カリキュラムマップを編成し、学生の主体的な受講と学修を推進する。</p> <p>(3) 学修の効果を高めるため、主体的、協働的、課題の見出し・解決型の実践的学修を取入れる。</p> <p>(4) 本学教育の総仕上げとして、卒業研究を必修とする。</p> <p>3 学修成果の評価</p> <p>(1) 2年終了時には、進学課程に必要な単位の修得と卒業研究等の履修に必要な基礎学力の修得を評価する。</p> <p>(2) 学修状況を調査し、学修の状況と学修の方法を把握して指導と評価に活用する。</p> <p>(3) 卒業研究と関連学修について総合的な学修を評価し、卒業の適否を判断する。</p>   | <p>2 教育内容・方法</p> <p>(1) 家政学部では、健康栄養学、生活科学、住居学の基礎と専門について、家政学的視点から実践的に教育する。</p> <p>(2) 各学修分野について、カリキュラムマップ、専門・基礎テキスト、資格取得ガイドブック等の教材や資料、授業と家庭学修の指針となるシラバスを提供し、学生の主体的な学修を支援する。</p> <p>(3) 実践科目では、就業力を育成するため、学生参加型授業、グループ学習、課題解決型学習（PBL）等を実施し、課題の発見・解決に向けた主体的・対話的での深い学修を支援する。</p> <p>(4) 各学年にアドバイザー教員を配置し、学生の学修・生活等についてきめ細かな相談や助言を行う。</p> <p>3 学修成果の評価</p> <p>(1) 学生の学修成果は、レポート、テスト、実技、行動力、出席率などで評価し、単位認定の適否を判断する。</p> <p>(2) 2年終了時には、進級に必要な科目の単位修得と卒業研究等の履修に必要な基礎学力の修得ができていないかを評価し、進級の適否を判断する。</p> <p>(3) 卒業研究と全体的な学修について評価し、卒業の適否を判断する。</p> | <p>2 教育内容・方法</p> <p>(1) 文化創造学部では、文化創造学、初等教育学、デジタルアーカイブを実践的に教育する。</p> <p>(2) 各専攻で、学士力育成のためのカリキュラムマップ、専門基礎テキスト、資格取得ガイドブック等の教材や資料、授業と家庭学修の指針となるシラバスを提供し、学生の主体的な学修を支援する。</p> <p>(3) 学生参加型授業、問題解決型学習（PBL）等を実施し、課題の発見・解決に向けた主体的・対話的での深い学修を支援する。</p> <p>(4) 各学年にアドバイザー教員を配置し、学生の学修・生活等についてきめ細かな相談や助言を行う。</p> <p>3 学修成果の評価</p> <p>(1) 学生の学修成果は、レポート、テスト、実技、行動力、出席率などで評価し、単位認定の適否を判断する。</p> <p>(2) 2年終了時には、進級に必要な科目の単位修得と卒業研究等の履修に必要な基礎学力の修得ができていないかを評価し、進級の適否を判断する。</p> <p>(3) 卒業研究の評価は論文発表と口頭発表で行い、その結果と全履修科目の学修成果を総合して、卒業の適否を判断する。</p> <p>入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）</p> <p>文化創造学部は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ、次のような女学生の入学を期待する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 大学での学修に必要な基礎学力を有している人。</li> <li>2 知的好奇心にあふれ、向学心のある人。</li> <li>3 他者の考えを理解し、自分で考えて判断し、自己の意見を表現できる社会的能力を磨きたい人。</li> <li>4 卒業後は、地域社会での活躍をめざす人。</li> </ol> |
| <p>2 教育内容・方法</p> <p>(1) 家政学部では、健康栄養学、生活科学、住居学の基礎と専門について、家政学的視点から実践的に教育する。</p> <p>(2) 各学修分野について、カリキュラムマップ、専門・基礎テキスト、資格取得ガイドブック等の教材や資料、授業と家庭学修の指針となるシラバスを提供し、学生の主体的な学修を支援する。</p> <p>(3) 実践科目では、就業力を育成するため、学生参加型授業、グループ学習、課題解決型学習（PBL）等を実施し、課題の発見・解決に向けた主体的・対話的での深い学修を支援する。</p> <p>(4) 各学年にアドバイザー教員を配置し、学生の学修・生活等についてきめ細かな相談や助言を行う。</p> <p>3 学修成果の評価</p> <p>(1) 学生の学修成果は、レポート、テスト、実技、行動力、出席率などで評価し、単位認定の適否を判断する。</p> <p>(2) 2年終了時には、進級に必要な科目の単位修得と卒業研究等の履修に必要な基礎学力の修得ができていないかを評価し、進級の適否を判断する。</p> <p>(3) 卒業研究と全体的な学修について評価し、卒業の適否を判断する。</p> | <p>入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）</p> <p>家政学部は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を理解して、それを学ぶに足る基礎的学力を有し、学修に意欲があり、課題の見出しと解決に取り組む卒業後に地域社会での活動をめざしている人の入学を期待する。</p>   | <p>入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）</p> <p>家政学部は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ、次のような女学生の入学を期待する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 大学での学修に必要な基礎学力を有している人。</li> <li>2 知的好奇心にあふれ、向学心のある人。</li> <li>3 他者の考えを理解し、自分で考えて判断し、自己の意見を表現できる社会的能力を磨きたい人。</li> <li>4 卒業後は、地域社会での活躍をめざす人。</li> </ol>  |



【大学院】

| 生活科学研究科<br>（ディプロマ・ポリシー）  | 文化創造学研究科<br>（ディプロマ・ポリシー）   |
|--|--|
| <p>修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）</p> <p>生活科学研究科は、建学の精神に基づき、高度な専門的知識と創造性豊かな研究能力や総合的課題処理能力を身に付け、生活や健康の質の向上を追究・提案・実践できる次のような人材の育成を目標とする。この目標を踏まえた本研究科の教育課程を修め、修了要件を満たした者に学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 衣食住などの人間生活、あるいは食べ物と健康との関係について幅広い知識を修得し、人間生活の向上や改善、食生活を通じた健康の増進や疾病の予防に寄与できる高度な専門性を身に付ける。</li> <li>2 地域社会で主体的な貢献や活動を行うために、自律性、協調性、対話力、倫理観などの人間力を身に付ける。</li> <li>3 家庭科教員を目指す場合には、教材の研究及び開発を行う力、児童や生徒の教育を実践的に展開し、その分析・評価・改善ができる力を身につける。</li> </ol> <p>教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）</p> <p>生活科学研究科は、修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、衣食住を中心とする人間生活の質の向上を図る生活科学分野と食べ物と健康との関わりを深求する応用栄養学分野について、「健康・安全」、「快適・利便」、「ゆとり・豊かさ」、「自己表現」などの観点から、以下のカリキュラムを体系的に編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育課程の編成 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 生活科学研究科は、生活科学分野と応用栄養学分野で構成し、両者に共通する授業内容を研究科の必修科目として配置する。</li> <li>(2) 生活科学分野は、高度な家庭科教材の開発や実践的な食育などの教育・研究科目を配置する。</li> <li>(3) 応用栄養学分野は、管理栄養学の高度な知識と実践力を養成する教育・研究科目を配置する。</li> <li>(4) 研究能力の育成のため、修士論文特別研究を配置する。</li> </ol> </li> <li>2 教育内容・方法 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 生活科学研究科は、生活科学分野と応用栄養学分野を実践的に学修する。</li> <li>(2) 生活科学分野は、高度な専門知識を修めた家庭科教員（高等学校・中学校）の養成を図る。</li> <li>(3) 応用栄養学分野は、EBN（evidence-based-nursing：実証に基づく看護ケア）に関する栄養研究に力を入れて、管理栄養士・栄養教諭専修免許が取得できる力を養成する。</li> <li>(4) 入学時点で学生の指導教員を決め、実験・実習等に付随する諸問題に対して個別に細やかな研究指導を行う。</li> <li>(5) 社会人教育を実施するため、土曜日・日曜日に集中講義を開講する。</li> </ol> </li> </ol> | <p>修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）</p> <p>文化創造学研究科は、建学の精神に基づき、高度な専門的知識と技能を身につけ、主体性を持って文化の伝承と創造に貢献し、次世代を育てる実践的な教育研究活動ができる人材の育成を教育目標とする。この目標を踏まえた本研究科の教育課程を修め、必要な修了要件を満たした者に学位を授与する。</p> <p>教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）</p> <p>文化創造学研究科は、文化創造学と初等教育学の二つの専攻において、修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、多様化する現代の諸課題に対応できる実践力と専門分野における高度な研究力の修得を目指して、体系的なカリキュラムを編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育課程の編成 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 文化創造学専攻・デジタルアーカイブ専攻では、日本文化、英語文化（通信教育課程は除く）、文化創造の3つの分野に共通する授業科目と分野に応じて、それぞれ、書道・国語・英語（通信教育課程は除く）ならびにアーカイブに関する研究科目を配置する。</li> <li>(2) 初等教育学専攻では、幼稚園児及び小学生の育成に関する実践的な教育・研究科目を配置する。</li> <li>(3) 各専攻について、通信教育課程を編成する。</li> <li>(4) 研究能力の育成のため、修士論文特別研究を配置する。</li> </ol> </li> <li>2 教育内容・方法 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 文化創造学研究科は、文化創造学と初等教育学を実践的に学修し、それぞれにおいて、高等学校教諭専修免許（国語・英語（通信教育課程は除く）・書道）・中学校教諭専修免許（国語・英語（通信教育課程は除く））および小学校教諭専修免許・幼稚園教諭専修免許の取得可能な能力を養成する。</li> <li>(2) 文化創造学研究科は、情報社会が求める上級デジタル・アーキビストの養成を行う。</li> <li>(3) 入学時点で学生の指導教員を決め、実験・実習等に付随する諸問題に対して個別に細やかな研究指導を行う。</li> <li>(4) 通信教育課程の学生には、スクーリングを土曜日・日曜日・祝日等に実施する。</li> </ol> </li> </ol> |

|   |  |
|---|--|
| <p>3 学修成果の評価</p> <p>(1) 履修科目の学修評価は主にレポートで行い、研究能力の修得評価は実技などの取り組み状況、学内外での研究報告・発表（口頭、論文）で行う。</p> <p>(2) 修士論文特別研究では、作成した論文と口頭発表について複数教員で評価する。</p> <p>(3) 以上の評価を総合して、修了の適否を判断する。</p>   | <p>3 学修成果の評価</p> <p>(1) 履修科目の学修評価は主にレポートで行い、研究能力の修得評価は実技などの取り組み状況、学内外の研究報告・発表（口頭、論文）で行う。</p> <p>(2) 修士論文特別研究では、作成した論文と口頭発表について複数教員で評価する。</p> <p>(3) 以上の評価を総合して、修了の適否を判断する。</p>   |
| <p>入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）</p> <p>生活科学研究科は、岐阜女子大学の建学の精神と教育方針・目的を理解し、次のような素養と気構えのある学生の入学を期待する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 大学院での学修・研究に必要な基礎的専門知識・技能を備えている人。</li> <li>2 衣生活、住生活に関する諸問題の解決に意欲を持っている人、又は食べ物と健康との関係について関心を持っている人。</li> <li>3 地域社会における衣食住に関する諸問題の解決に貢献する志のある人。</li> <li>4 知的好奇心にあふれ、自主的な研究を行う意欲を持っている人。</li> </ol> | <p>入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）</p> <p>文化創造学研究科は、修了認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ、次のような学生を求める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 大学院での学修・研究に必要な基礎的専門知識・技能を有する人。</li> <li>2 他者の考えを理解し、自分で考え判断し、自己の意見を表現できる人。</li> <li>3 知的好奇心にあふれ、主体性を持って多様な人々と協働して研究に打ち込める人。</li> <li>4 文化の伝承と創造、次世代の育成など、地域社会の発展に向けて行動できる人。</li> </ol> <p>文化創造学研究科通信教育課程は、修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ、上記に加え、次のような学生を求める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5 働きながら学ぶ意欲のある人。</li> </ol> |

## 生活科学専攻

### ◆ 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

生活科学専攻は、家政学部の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を受け、次の能力を有することを重視し編成した本専攻の教育課程を修め、必要な卒業要件を満たした者を学位授与の適格者とする。

- 1 衣・食・住に関する知識や技能を活用し、課題の見出しと解決に取組み、豊かな生活を工夫し地域社会で主体的に展開できる力を身につけている。
- 2 家族に関する知識や技能を活用し、円滑な対人関係を築き、人と適切に接する総合的人間力を有している。
- 3 消費生活・環境に関する知識や技術を活用し、生活上の多様な課題に対処できる自律性と協調性・倫理観を身につけている。
- 4 洋裁・和裁の縫う知識・技能を備え、家庭科教員としての確かな実習指導ができる能力を有している。
- 5 これらの資質・能力を多面的に活用し、家庭科教育を通じて社会へ貢献することができる力を身につけている。

### ◆ 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

生活科学専攻は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、教養教育科目、学部共通科目、専門科目、関連する選択科目や実践的教育を体系的に編成して開講する。

#### 1 教育課程の編成

- (1) 教養教育では、自己確立をめざす基盤教育に注力し、地域社会のグローバル化に応じた情報学、外国語学と教養選択科目を配置する。
- (2) 専門教育では、学修の基礎となる共通科目と高度な専門科目を体系的に配置し、家庭科教員資格取得をめざした教育課程を編成する。
- (3) 洋裁・和裁の技術向上のために、被服実習科目を多く配置する。
- (4) 論理的な思考力と行動力を身につけるため、卒業研究と学士論文の作成を必修とする。

#### 2 教育内容・方法

- (1) 日常の生活課題を科学的に分析し、課題の見出しと解決に取組み、豊かな生活を創造するために実践科目を重視する。

- (2) 各学修分野について、カリキュラムマップ、専門・基礎テキスト、資格取得ガイドマップ等の教材や資料、授業と家庭学修の指針となるシラバスを提供し、学生の主体的な学修を支援する。
- (3) 実践科目では、被服実習・調理実習といった実習面に強い・実践的指導力の高い家庭科教員を養成するため、実習授業、グループ学習、課題解決型学習（PBL）、模擬授業等を実践する。創造的に考え、多様な人々と取り組み、主体的に生活の問題解決をはかる人材を育成する。
- (4) 各学年にアドバイザー教員を配置し、学生の学修・生活等についてきめ細やかな相談や助言を行う。

### 3 学修成果の評価

- (1) 学生の学修成果は、レポート、テスト、製作物、行動力、出席率などで評価し、単位認定の適否を判断する。
- (2) 2年終了時には、進級に必要な科目の単位修得と卒業研究等の履修に必要な基礎学力の修得ができているかを評価し、進級の適否を判断する。
- (3) 卒業研究と全体的な学修について評価し、卒業の適否を判断する。

### ◆ 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

生活科学専攻は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を理解して、それを学ぶに足る基礎的学力を有し、学修に意欲があり、課題の見出しと解決に取組み、卒業後に地域社会での活躍をめざしている人の入学を期待する。

## 住居学専攻

### ◆ 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

住居学専攻は、家政学部の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を受け、次の能力を有することを重視し編成した本専攻の教育課程を修め、必要な卒業要件を満たした者を学位授与の適格者とする。

- 1 生活者側の視点に立ち、住む人、使う人が満足できる建築・インテリアの高い専門的知識・技術を修得し、課題の見出しと解決に取り組み、地域社会で活躍できる力を身につけている。
- 2 建築・インテリアに関する幅広い知識・技術を修得し、地域社会で有用な資格を取得できる力を身につけている。
- 3 地域社会で活躍できるように、建築・インテリアのデザインに必要なコミュニケーション力と社会人として求められる教養や人間性を身につけている。

### ◆ 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

住居学専攻は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、学部共通科目、専門科目、発展的科目、卒業研究、実践的教育を体系的に編成して開講する。

#### 1 教育課程の編成

- (1) 初年次（専門基礎）教育では、専門科目の履修に必要な基礎学力を補完するための科目と建築・インテリアをデザインするための基礎科目を配置する。
- (2) 専門教育では、建築スペースデザインコース、インテリア・プロダクトデザインコースの2つを設け、より実践的な課題に対応できる知識・技術を修得する科目を配置し、併せて社会で求められる国家資格等の取得を目指した教育課程を編成する。
- (3) 実践的能力を重視して、専門教育科目のコアとなる設計・作図演習、ICTの活用、プロジェクト実習等を初年次より配置する。
- (4) 課題設定・解決力、企画・計画力、プレゼンテーション力等を身につけるために、卒業研究を必須とする。

#### 2 教育内容・方法

- (1) 実践力を身につけるために、実際の建物等を企画・設計・施工する実習や地域の課題解決型の実習等の実践的教育をおこなう。

- (2) 各学修分野について、カリキュラムマップ、専門・基礎テキスト、資格取得ガイドマップ等の教材や資料、授業と家庭学修の指針となるシラバスを提供し、学生の主体的な学修を支援する。
- (3) 実践科目では、被服実習・調理実習といった実習面に強い・実践的指導力の高い家庭科教員を養成するため、実習授業、グループ学習、課題解決型学習（PBL）、模擬授業等を実践する。創造的に考え、多様な人々と取り組み、主体的に生活の問題解決をはかる人材を育成する。
- (4) 各学年にアドバイザー教員を配置し、学生の学修・生活等についてきめ細やかな相談や助言を行う。

### 3 学修成果の評価

- (1) 学生の学修成果は、レポート、テスト、製作物、行動力、出席率などで評価し、単位認定の適否を判断する。
- (2) 2年終了時には、進級に必要な科目の単位修得と卒業研究等の履修に必要な基礎学力の修得ができているかを評価し、進級の適否を判断する。
- (3) 卒業研究と全体的な学修について評価し、卒業の適否を判断する。

### ◆ 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

生活科学専攻は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を理解して、それを学ぶに足る基礎的学力を有し、学修に意欲があり、課題の見出しと解決に取組み、卒業後に地域社会での活躍をめざしている人の入学を期待する。

## 健康栄養学科

### ◆ 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

健康栄養学科は、家政学部の「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」を受け、次の能力を有することを重視し、編成した本学科の教育課程を修め、必要な卒業要件を満たした者を学位授与の適格者とする。

- 1 管理栄養士として、地域社会で主体的に活動できる力を身につけている。
- 2 健康と栄養の専門知識と技能を修得し、管理栄養士を始め地域社会で有用な資格を取得できる力を身につけている。
- 3 地域社会の幅広い分野で活躍できるように、自律性と協調性、倫理観、コミュニケーション能力などを修得し、豊かな人間力を身につけている。

### ◆ 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

健康栄養学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、専門基礎科目、専門科目、関連する選択科目や実践的教育を体系的に編成して開講する。

#### 1 教育課程の編成

- (1)管理栄養士として、地域の栄養と食に関する課題を抽出するための基礎科目を配置する。
- (2)管理栄養士として、地域の栄養と食に関する課題を客観的に分析するための科学的思考力を養う専門科目を体系的に配置し、国家資格等の取得をめざした教育課程を編成する。
- (3)科学的根拠に基づいた実践的能力を重視して、課題の見出しと解決に取り組むため、講義に関する演習・実習科目を多く配置する。
- (4)論理的な思考力と行動力を身につけるため、卒業研究と卒業論文の作成を必修とする。

#### 2 教育内容・方法

- (1)健康栄養学科では、栄養学の基礎と専門について、実践的に教育する。
- (2)各学修分野について、カリキュラムマップ、専門・基礎テキスト、資格取得ガイドブック等の資料や教材を提供し、主体的な自己学修を奨励するとともに、適切な情報の収集・選択をする技能を修得する。

- (3) 実践科目では、就業力を育成するため、学生参加型授業、グループ学習、課題解決型学習（PBL）等を実施する。
- (4) 学修環境を整備し、課題の発見・解決に向けた主体的・対話的な深い学びを支援する。
- (5) 各学年各クラスにアドバイザー教員を配置し、学生の学修・生活等についてきめ細かな相談や助言を行う。

### 3 学修成果の評価

- (1) 学生の学修成果は、レポート、テスト、実技、行動力、出席率や学修目標の達成度などで評価し、単位認定の適否を判断する。
- (2) 2年終了時には、進級に必要な科目の単位修得と卒業研究等の履修に必要な基礎学力の修得ができているかを評価し、進級の適否を判断する。
- (3) 卒業研究と全体的な学修について評価し、卒業の適否を判断する。

### ◆ 入学受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

健康栄養学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を理解して、それを学ぶに足る基礎的学力を有し、食べ物と健康に関心を持ち、学修に意欲があり、卒業後に課題の見出しと解決に取り組む地域社会での活躍をめざす人の入学を期待する。



## 初等教育学専攻

### ◆ 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

初等教育学専攻は、文化創造学部卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を受け、次の能力を有することを重視し編成した本専攻の教育課程を修め、必要な卒業要件を満たした者を学位授与の適格者とする。

- 1 幼児期から児童期にかけての教育に対して、見通しをもった課題を見出し、解決に導く教育実践の力を身につけている。
- 2 教育人として人間性・社会性に優れ、教育への情熱を有している。
- 3 理論と実践との往還により着実な教育実践力を有し、自己向上に励み社会に貢献できる力を身につけている。

### ◆ 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

初等教育学専攻は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、0 歳から 12 歳までの子どもの心身の成長発達を理解し、ICT 活用指導力を供えもち、教育の今日的課題に向かい、その解決に取り組む保育士・教員を養成する。既設の「人材育成構想」（理論と実践の往還）に、授業方法としてデジタルと対面の最適な組み合わせによる効果的な学び方を視野に入れ、以下のカリキュラムを編成している。

#### 1 教育課程の編成

- (1) 初等教育学専攻のカリキュラムは、子ども発達専修と学校教育専修で編成されている。それぞれ「幼児期の保育・教育」と「小学校の教育」を系統的に学ぶことができる。
- (2) 二つの専修のカリキュラムは、相互に関連する科目を履修し、周辺領域を学ぶことができる。
- (3) 本学のもつ ICT 活用に関わる教育資財を活かし、活用していく能力・技能を身につけることができる。
- (4) 保育、教育に関する理論学修と実践活動を重ねながら自らの子ども観、保育観・教育観を高め、保育者、教育者としての資質と教育の課題の解決にもつながる実践力を身につけることができる。
- (5) 集団学習等をとおして、仲間と保育・教育の本質を追究し、互いに高め合う力を育み、コミュニケーション能力などの社会性を育むことができる。
- (6) オンライン教育と対面教育の効果的な組み込み方を実践的に身につけることができる。

## 2 教育内容・方法

- (1) 理論と実践の往還による学修の省察を集積し、思考力、判断力、表現力を鍛錬していく。
- (2) 1 年次から 4 年次にかけての段階的な保育・教育現場等での体験活動を、年次毎に配置し、実践したことを教育実習に活かして、教師力を高める。
- (3) これからを生きる児童生徒に必要とする情報機器を活用する能力や学修をより効果的学ばせていくドローン・メタバース活用技法に至る学修を習得する。
- (4) 教育者に不可欠な育ての心とその技能、また子ども向けの活動で地域の人々と結び合っていくカリキュラムを位置づけ、心身共に優しさと強さを持った保育者・教員を育成する。
- (5) 学年を担当する学生のアドバイザーは、4 年間を見据えて職への専門性を高めていく、階段を踏まえた学修・生活の助言を行う。

## 3 学修成果の評価

- (1) 学生の学修成果は、レポート、テスト、実技、行動力、出席率などで評価し、単位認定の適否を判断する。
- (2) 2 年終了時には、進級に必要な科目の単位修得と卒業研究等の履修に必要な基礎学力の修得ができているかを評価し、進級の適否を判断する。
- (3) 保育所実習、教育実習に赴くには、必要な学修成果と進路への意思と意欲を評価し実習への適否を判断する。
- (4) 卒業研究は、論文の口頭発表と論文本体の記述を合わせて評価し、その結果と全履修科目の学修成果を総合して、卒業の適否を判断する。

## ◆ 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

初等教育学専攻は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を理解した次のような人を求める。

- 1 子どもとの関わりが好きで、幼児期の子どもの成長発達に深く関わりたいと考える人
- 2 教師への憧れを強くもち、児童を教育していくことに熱情を持っている人
- 3 仲間と力を出し合って共に成長していく仕事がしたいと思っている人
- 4 教育に関心があり、教育の課題の解決に取り組みたいと思っている人

## 文化創造学専攻 書道専修

### ◆ 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

文化創造学専攻書道専修は、文化創造学部卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を受け、次の能力を有することを重視し編成した本専攻の教育課程を修め、必要な卒業要件を満たした者を学位授与の適格者とする。

- 1 教育者として「書写・書道」を総括的に理解・修得するとともに、練度の高い技能で多様な作品づくりができ、その文化を継承し発展させることができる。
- 2 岐阜女子大学の建学の精神・教育方針を理解し、書道を通してボランティア活動・国際交流に努め、学修の成果を活かし社会に貢献できる。

### ◆ 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

文化創造学専攻書道専修は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、小・中学校の「書写」、高等学校の「芸術科書道」の教員を育成すること、および高度な専門性を以って、書道文化を継承し社会に貢献する人材を輩出することをめざし、以下のカリキュラムを編成している。

#### 1 教育課程の編成

- (1) 基礎・基本を大切に「基本点画」から学び、その後の臨書学習へと展開する。また書道概論・書道史・書論等の科目で「理論面」を補強し、実践的指導力を身につけるため「書写教育」・「書道科教育法」等を開設する。
- (2) 高等学校の「芸術科書道」では授業内容の9割が「臨書」であるため、各学年に「千字臨書」を課し「臨書力」が身につくように、各書体の講義を開設する。
- (3) 芸術としての「書道」の可能性も追求し、現代の書道を創造していくことができるよう「創作」の講義を開設する。
- (4) 書写検定試験の対策講座を時間割内で、教員採用試験・漢字検定試験の対策講座を授業時間以外に実施する。

#### 2 教育内容・方法

- (1) 基礎・基本を徹底させるため、実技科目では合格制を取り入れて多くの課題を出し、理論科目では小テストを設定して、学修効果を高める。
- (2) 放課後および休祭日の作品制作だけではなく、夏期休暇には2泊3日の錬成会を実施し、行事への企画力・協調性ととも制作時の集中力を養う。

- (3) 学内での「大作展」・「半切展」の表装では、学生同士の相互支援の中で進める協働学習を通してコミュニケーション能力を養うと共に技術の伝承を図る。
- (4) 毎年の国内研修旅行・隔年の中国研修旅行を実施して、見聞を広め書道関係の知識を深める。
- (5) 各学年にアドバイザー教員を配置し、学生の学修・生活等についてきめ細やかな相談や助言を行う。

### 3 学修成果の評価

- (1) 2年終了時には、進級に必要な科目の単位修得と卒業研究等の履修に必要な基礎学力の修得ができていないかを評価し、進級の適否を判断する。
- (2) 卒業研究では、論文に加え卒論発表会でのプレゼンテーション能力も含めて総合的に評価する。
- (3) 卒業制作では、3分野以上の幅広い作品制作ができしかも鍛錬度の高さを「創造性」を観点に評価する。

### ◆ 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

文化創造学専攻書道専修は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を理解し、書道文化およびその継承・発展に深い関心を持ち、書写・書道教育の専門性を高め教育者になろうとすると共に社会に貢献しようとする人を求める。

## 文化創造学専攻 観光専修

### ◆ 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

観光専修は、文化創造学部の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を受け、次の能力を有することを重視し編成した本専攻の教育課程を修め、必要な卒業要件を満たした者を学位授与の適格者とする。

- 1 観光専修では、世界に通用するホスピタリティスキルを有する。
- 2 英語教員を目指す学生は、高度な専門性と英語によるコミュニケーション能力を身につけている。
- 3 観光専修の全学生は、在留外国人の雇用に必要な専門知識を有し、幅広い分野で活躍できる人材である。
- 4 観光専修の全学生は、明確なビジョンを持って問題を発見し、自ら解決に導く実践力を有する。

### ◆ 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

観光専修は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、特に、観光という視点と英語教育という視点から、専門科目、選択科目、資格取得に関する以下のカリキュラムを編成している。

#### 1 教育課程の編成

- (1) 専門教育では、専門科目、選択科目、資格取得に関する科目の学修内容・学修目標を明確にして配置する。
- (2) 学外実習科目を系統的に配置し、観光業または英語教育に関わる学生の実践力および課題解決能力の育成を図る。

#### 2 教育内容の方法

- (1) 観光専修では、それぞれホテルマネジメントと旅行業務に精通した観光スペシャリストの育成及び外国人雇用に関する学修を通して、地方公務員や一般企業など幅広い分野で活躍できる人材を育成するカリキュラムを編成している。
- (2) 英語教育に興味を示す学生のために、国際社会で通用するグローバルな視野を持った英語教員の育成するカリキュラムを編成している。
- (3) 各学年にアドバイザー教員を配置し、学生の学修・生活等についてきめ細やかな相談や助言を行う。

や助言を行う。

### 3 学修成果の評価

- (1) 学生の学修成果は、通常授業の評価に加えて、実習時の成果、長期休暇中の課題の成果を総合的に考察して、学生の学修指導を行う。
- (2) 2年終了時には、進級に必要な科目の単位修得と卒業研究等の履修に必要な基礎学力の修得ができているかを評価し、進級の適否を判断する。
- (3) 卒業研究と全体的な学修について評価し、卒業の適否を判断する。

### ◆ 入学者受け入れの方針（アドミSSION・ポリシー）

観光専修は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を理解し、日本や世界の文化に興味を持ち、観光に関する専門的な知識を深め、また、英語のコミュニケーション能力を向上させ、観光産業や教育の世界で活躍したいという人材を求める。

- 1 国内外の旅行が好きで、その案内や企画を作りたいと希望する人
- 2 ホスピタリティスキルを身につけ、ホテルビジネスをはじめとする観光関連産業に将来携わりたい人
- 3 国際協力や国際支援に興味・関心があり、世界でグローバルな仕事に関わりたい人
- 4 専門性と英語によるコミュニケーション能力を備えた英語科教育を希望する人
- 5 観光、国際関係に興味があり、刻々と変わるこれらの業界の課題解決に取り組みたいと考えている人

## デジタルアーカイブ専攻

### ◆ 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

デジタルアーカイブ専攻は、文化創造学部卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を受け、次の能力を有することを重視し編成した本専攻の教育課程を修め、必要な卒業要件を満たした者を学位授与の適格者とする。

- 1 デジタルアーカイブに関する幅広い知識・技能を修得し、それらを活用して知的財産（著作）権やプライバシー保護などの倫理に留意し文化を創造・発信する能力を有している。
- 2 資料をデジタルアーカイブ化する専門的知識と技能を修得し、デジタルアーキビスト、博物館学芸員、図書館司書の資格を取得できる力を身につけている。
- 3 文化を創造・発信するために、課題の発見と解決に取組み、常に新しい知識・技能の修得に努める強い意志を有している。

### ◆ 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

デジタルアーカイブ専攻は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、文化に関する知識を身につけた上で、それらをデジタル化して記録・保存・管理し、知的財産（著作）権やプライバシー保護などの倫理に留意し、文化を創造・発信する能力を持ち、知識集約型社会に貢献できる専門職を実践的に育むために、以下のカリキュラムを編成している。

#### 1 教育課程の編成

- (1) デジタルアーカイブ能力の育成と、その能力を活かした企業、地方公共団体、図書館や博物館で活躍できる人材の育成を目指し、専門科目では、「文化の基礎分野」、「文化創造伝承分野」、「書誌アーカイブ分野」、「教材開発分野」の関連科目を、学修内容・学修目標を明確にして配置する。
- (2) 演習科目として、「特別プロジェクト」、「図書館活動演習」、「博物館実習（デジタルミュージアム実習）」を配置し、学生の実践力の育成を図る。
- (3) デジタルアーカイブに関する論理的な思考力と実践力を身につけるため、卒業論文の作成を必修とする。

## 2 教育内容・方法

- (1) デジタルアーカイブ専攻では、デジタルアーカイブに必要とされる収集、保存・管理、発信、評価の各プロセスについて実践的に教育する。
- (2) デジタルアーカイブの各プロセスに必要な知識、技能の修得のため、専門基礎テキスト、資格取得ガイド等の教材や資料を提供し、課題に主体的に取り組む姿勢と問題解決力を育成する。
- (3) 演習科目では、学生参加型授業、グループ学修、フィールドワークを取り入れ、課題の発見・解決に向けた主体的・対話的での深い学びを支援する。自分にはない他者からの新しい視点を取り入れ、省察する視点を重視する。
- (4) 各学年にアドバイザー教員を配置し、学生の学修・生活等についてきめ細やかな相談や助言を行う。

## 3 学修成果の評価

- (1) 学生の学修成果は、レポート、テスト、デジタルアーカイブ作品、出席率などで評価し、単位認定の適否を判断する。
- (2) 2年終了時には、進級に必要な科目の単位修得と卒業研究等の履修に必要な基礎学力の修得ができているかを評価し、進級の適否を判断する。
- (3) 卒業研究の評価は、論文作成と口頭発表で行い、その結果と履修科目の学修成果を総合して、卒業の適否を判断する。

### ◆ 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

デジタルアーカイブ専攻は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を理解し、文化や歴史に関する知識・技能を実践的に身につけ、課題解決に取り組み、社会に貢献したいという意欲のある人を求める。